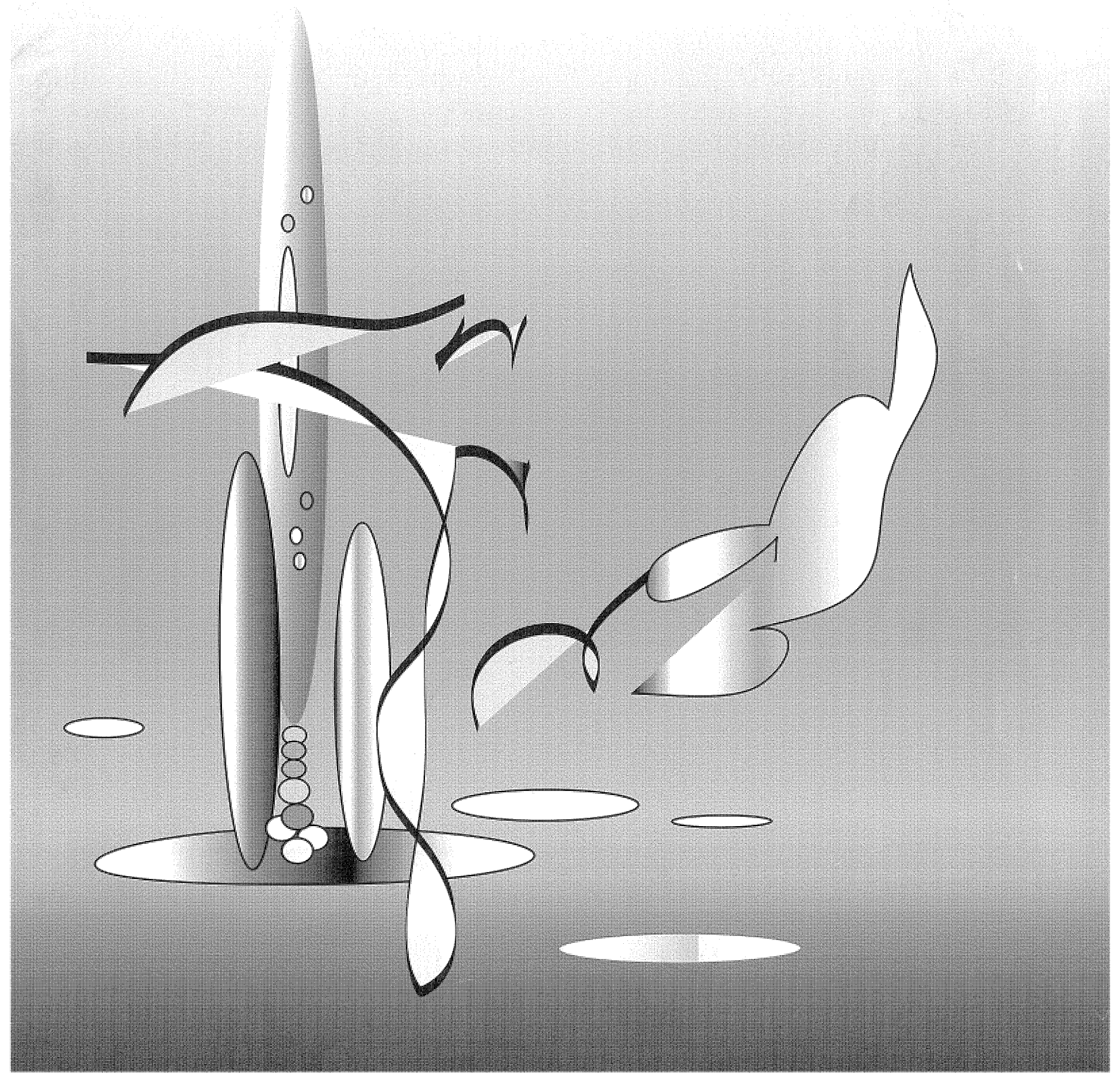
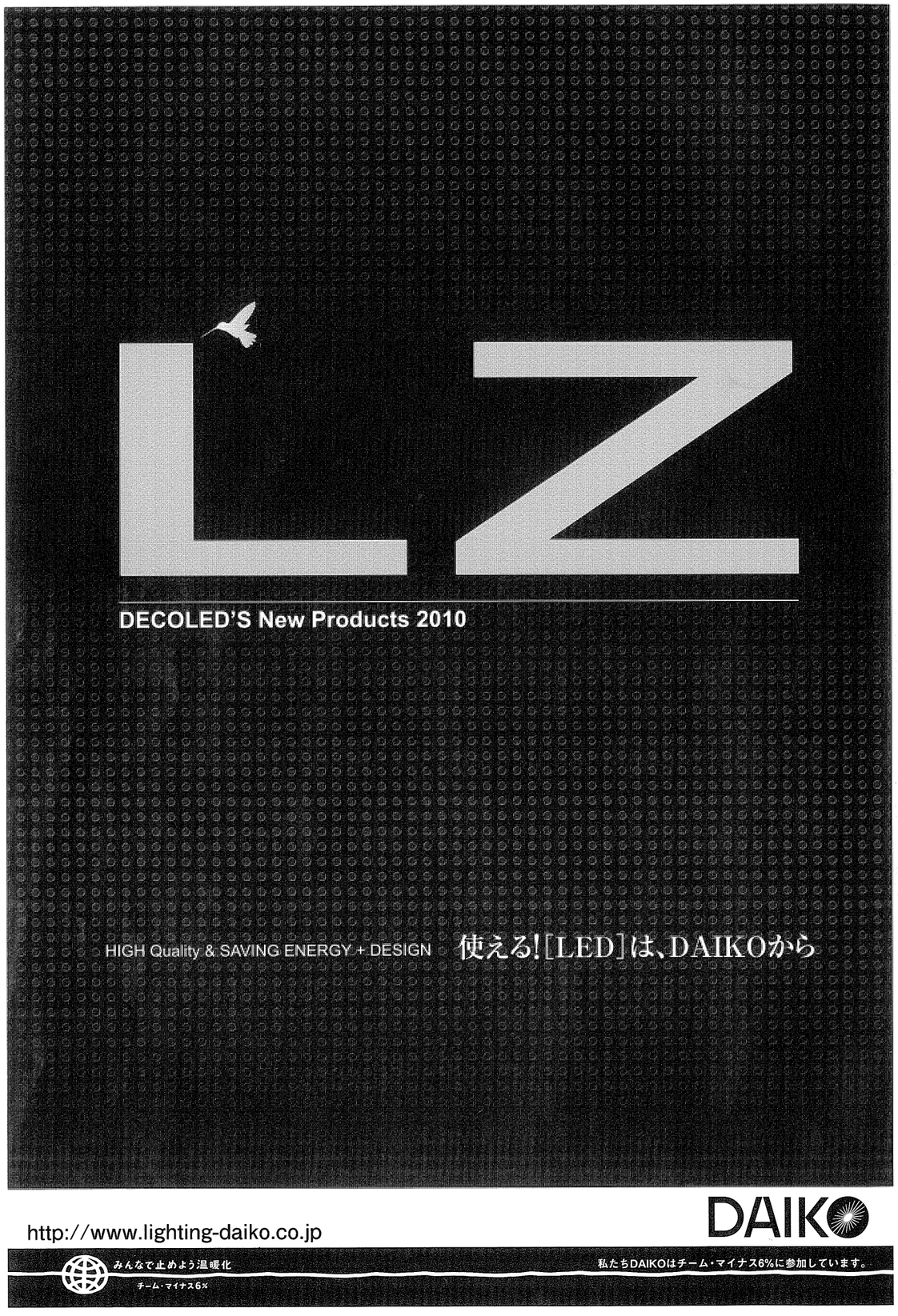
JCD

Kansai

2010.3.Vol.65





JCD Kansai 2010.3 Vol.65

[表紙・デザイン]
「アビス」
MINO CREER (ミーノ・クレエ)
友田みのり

深淵の都を描いて観ました…

2010年（平成22年）3月号
vol.65　平成22年3月発行
発行／社団法人
日本商環境設計家協会
関西支部
〒559-0034
大阪市住之江区南港北2-1-10
ATCビル ITM棟10階A-1
（財）大阪デザインセンター内
Tel./Fax.　06-6613-5557
広報企画委員会
委　員　長／三嶽 穂積
委　　員／青野 恵太　岡島　昇
先崎 綾華　友田みのり
長山 博　野井 成正
橋本 健二
制作／グラフィックアーツ ベルテ

社団法人　日本商環境設計家協会　関西支部
JCD KANSAI　2010年3月 第65号

CONTENTS

04 ● 特集
JCDkansaiデザイナーズアクセス2009
全体概要 —— 中尾　晋也
受賞者紹介
デザイナーズトークバトル —— 先崎　綾華

10 ● 特集
JCDデザインアワード2009
2009 JCDデザインアワード大賞作／選評 —— 岩佐　達雄・近藤　康夫・グエナエル・ニコラ
受賞作品紹介

14 ● 報告
広報企画委員会報告
第2回・第3回デザインカレッジ —— 橋本　健二

16 ● 連載
Working Now
新入会員紹介 —— ELENA GALLI GIALLINI・大東 俊也・小川 芳輝・北村晏南・先崎 綾華
新入賛助会員紹介 —— (株)CTD

18 ● 報告
研究委員会報告
JCD／DAIKO連続デザインシンポジウム SECTION 46 TOKYO & 47 OSAKA —— 中尾　晋也

19 ● 報告
広報企画委員会報告
第113回 コアトーク in OSAKA —— 中尾　晋也

20 ● 報告
JCD関西支部活動報告
2009年度支部総会 —— 藤村　正継
日本の空間デザイン展2009 —— 末浪　伸浩
第1回大阪市あきないグランプリ —— 山田　悦央
JCD関西クリスマスパーティ —— 藤村　正継
第30回JCD・DDA合同チャリティー絵馬展 —— 市川　邦治
るるぶ会 —— 金沢　明彦

JCD kansai 協力賛助会員

株式会社アダル
エヌ・エス・ケー ニシダ工業㈱
クリヤマ株式会社
SANGETSU
S.K planning
SINCOL シンコー株式会社 OSAKA
DAIKO
パナソニック電工株式会社
建築文化を創造する UNION 株式会社ユニオン
和田商事株式会社

JCDkansaiデザイナーズアクセス2009

全体概要

研究委員会　中尾 晋也

JCD関西支部研究委員会では、2009年10月23日(金)中津・丸甲倉庫において、JCDkansaiデザイナーズアクセス2009を企画運営開催した。そこでのメインイベントとして関西地区在住のデザイナーで商都KANSAIにふさわしく、デザインを通して関西経済に最も貢献したと思われるデザイナーに賞を差し上げた。選考基準は以下の通り。

①都KANSAIにおいて、デザインを通して関西経済に最も貢献したと思われるデザイナー
②造形的美しさを追求したデザイナーよりも、関西らしく商売繁盛に貢献したデザイナー
③市場経済に対して話題性を取ることができたデザイナー
④時流を見据えた新たな切り口を常に提供しているデザイナー
⑤マスコミなどの露出度が高く、広く業界で認知されているデザイナー

以上を選考基準の反映項目とし、39歳以下のデザイナーに与える「ライジングデザイナー賞」と40歳以上50歳以下のデザイナーに与える「ベストデザイナー賞」の2つの賞を用意した。

JCD関西正会員から広くノミネート者を募り、ノミネート締め切りを7月16日とし、他薦、自薦およびJCD会員である事は問わず募集を行った。

最終的にはライジングデザイン賞候補に20名、ベストデザイナー賞に17名のノミネート者で争われることになった。

そして迎えた、JCDkansaiデザイナーズアクセス2009当日、10月23日。一年で一番、熱い夜を！ JCDkansaiデザイナーズアクセス2009いよいよ開催！

会場の映像には、

時代のせいになんかしていられない。
「あれも無理、これも無理」なんか言っているやつに
次代はつくれないし、
次代に乗ることすらできないだろう。
時代を自らの手でつかみとろう。次代を切り開こう。
今こそがチャンスであることをみんなに知ってもらおう。
今だからできることをやり遂げよう。
今を生きよう。今を楽しもう。
今の今が大切なのだ。

とメインコピーが流れる会場に、11時から協賛各社の展示ブースの新製品を一目見ようと多数の来場者が集まり始める。まだスタートしたばかりの会場にいつもと違う熱気が漂う。

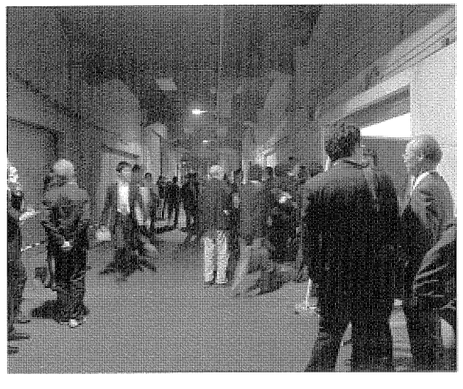
夕方に近づくほど、エキサイティングなムードが会場を覆い始める。そして午後5時、関西を代表するJCDメンバーのビッグデザイナー、足立和彦氏、辻村久信氏、野井成正氏、間宮吉彦氏による、デザインフォーラムが商店建築編集長、笈川誠氏のコーディネートで始まる。これだけのビッグスターが一堂に会する事はめったにない。一言も聞き洩らさないでおこうと、会場の緊張はおのずと高まる。およそ90分のトークバトルは、それぞれのデザイナーの個性のぶつかり合い、まさに「デザイナーズトークバトル」にふさわしい内容であった。（詳細は本誌P8～9を参照）

19時、いよいよパーティータイムの開始。ここからは未成年の入場制限、大人の時間が始まる。光とライブサウンドで会場のノリはピークに!!

19時30分、先にノミネートされたKANSAIベストデザイナーズ賞やKANSAIライジングデザイナーズ賞の各十名とベストクライアント賞の二社が表彰される。舞台上でライバル同士の目がキラリと光る。この中でグランプリを射とめるのは、それぞれの賞で1名のみ。発表は深夜22時頃となり、誰が受賞するのか期待は高まる。

一方、交流委員会が運営した「ショーツタワー」は、JCD会員の協力で、メンズショーツに絵柄を描きお気に入りをお買い上げいただきその収益を寄付するというデザイナーだからできる社会貢献を行った。

今回の収益金24，600円をユニセフ大阪支部に寄付させていただいた。



ショーツタワー

ベストドレッサー賞受賞の方々

壇上では引き続き、今回の開催に際し多大なご協力を頂いた、協賛企業そしてJCD賛助企業各社による企業紹介パフォーマンスが始まる。衣笠賛助委員長の軽快な進行で次々と賛助企業が紹介されていく、観客は賛助企業の説明により企業展示ブースに目を見張ると言う構図は、賛助企業にとって絶好のPRチャンスであったであろう。

盛り上がる会場では、MCの進行で「大名刺交歓会」が開催され、初対面の周辺の方々と最低3名の名刺交換は次のビジネスチャンスにつながると大いに盛り上がった。

ひと時の静粛があって次のプログラムは人気書道アーティストによるライブイベントと人気DJによるライブアートイベントは会場の中で次のイベントへの期待感を膨らませる。

会場にはお洒落をしての来場者も多数。この中から、写真家の仲佐猛氏のお眼鏡にかかった方がベストドレッサー賞に選ばれ表彰。最も素晴らしいファッションを披露していただき会場は一挙に華やかな雰囲気に包まれる。

いよいよ、KANSAIベストデザイナーズ賞やKANSAIライジングデザイナーズ賞などKANSAIを元気にしてくれているデザイナーの表彰が始まる。

KANSAIベストデザイナーズ賞やKANSAIライジングデザイナーズ賞のノミネート者が壇上に上がる。そして審査委員が壇上に上がる、足立和夫氏、笈川誠氏、辻村久信氏、野井成正氏、間宮吉彦氏から発表の時が迫ってくる。

「ライジングデザイナーズ賞」（39歳以下）には、柳原照弘氏（ISOLATION UNIT）が選ばれる。会場はどよめきと、拍手であふれかえる。

いよいよ、「ベストデザイナーズ賞」（40歳以上50歳以下）の発表の時が来た、会場は何とも言えぬ静けさに襲われたその時、審査委員の野井成正氏の口から「森井良幸さん!」。その瞬間会場は満場の拍手と、指笛が鳴り響き最高潮に達する。

いよいよ面白くなってきた、JCDkansaiデザイナーズアクセス2009の会場は最高潮に達する。すでに会場の時刻は22時を回っているが誰一人として帰る気配がない。

サウンドと演出照明の光があふれる会場は、まだまだ宴が続く……。受賞者への祝杯があちこちで行われ歓声が巻き起こっている。会場の熱気と興奮はなかなか引く気配がない。

そして、閉幕の午前零時がやってきた、MCからの閉幕のアナウンスを聞きながら興奮冷めやらぬ観集がそれぞれ街の中へと消えていった。そうして無事終了したJCD・KANSAIデザイナーズアクセス。

何事もなかったかのように会場の丸甲倉庫は静けさだけがその場を占領する。一千名を超える観衆が去った後は、ゴミやタバコの吸い殻の山。

白井支部長を先頭にスタッフ、ボランティアと会場のごみ処理そして、最寄駅の阪急中津までの道路上のごみ拾いを敢行。すべてが終わったのは午前三時。我々もやっと家路につくことができた。

しかしそれだけではない。後日その後審査委員の皆様、協賛企業様、賛助企業様などへの礼状の発送、会計処理など、イベントが終わってからも実務作業は続いた。

研究委員会のメンバーの皆さん、支部長以下理事の皆様、交流委員会、広報委員会、賛助委員会の関係者の皆様のご協力なくしてはこのイベントを実施運営することはできなかったと思う。

岩本委員長が多忙で私が委員長代行として企画運営をさせていただいたが、研究委員会のメンバーの中でも特に今福委員、酒井委員にはスポンサー獲得、運営面や学生ボランティアの手配など多大なご協力をいただいた。

JCD KANSAIのメンバーが一丸となって成しえた、JCDkansaiデザイナーズアクセス2009は、次のJCD50周年記念イベントへの大きな自信となってつながっていくことは間違いない。

JCDkansaiデザイナーズアクセス2009

受賞者紹介

研究委員会　中尾 晋也

39歳以下のデザイナーに与える「ライジングデザイナー賞」と40歳以上50歳以下のデザイナーに与える「ベストデザイナー賞」の2つの賞の審査委員はJCD関西正会員の中から、足立和夫氏、辻村久信氏、野井成正氏、間宮吉彦氏の4氏と、「商店建築」の笈川編集長にお願いした。

自薦他薦を問わず、ライジングデザイン賞候補に23名、ベストデザイナー賞に18名の応募があり、ライジングデザイン賞候補から3名の辞退、ベストデザイナー賞から1名の辞退者があり、最終的にはライジングデザイン賞候補に20名、ベストデザイナー賞に17名のノミネート者で争われることになった。

ノミネート者の作品写真5点とプロフィールで、審査委員にベストファイブを1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点の点数制で投票していただき、事務局で集計。審査委員に確認の上、ノミネート者ベストテンが決定した。

投票の結果、ライジングデザイナーズ賞に柳原照弘氏が受賞、ベストデザイナーズ賞には森井良幸氏が受賞した。

ベストデザイナーズ賞

森井　良幸

株式会社カフェ

最近の主なプロジェクト
Bleu（ブルー）
　大阪市西区南堀江　飲食店（内装デザイン）
SHUN（シュン）
　大阪市中央区難波　飲食店（内装デザイン）
佐用の湯（サヨウノユ）
　兵庫県佐用郡佐用町　温浴施設（建築設計、内装デザイン）

ライジングデザイナーズ賞

柳原 照弘

株式会社アイソレーションユニット

最近の主なプロジェクト
掲載誌：
・LIMCODE（原宿、美容室）/オランダの建築雑誌FRAのデザインWEBサイトDezeenなど
・日月餅（大阪、和菓子店）/CONFORT、日経アーキテクチュアなど
・ricort（原宿、美容室）/FRAMEmagazine、スペインの雑誌Pasajes Disenoなど
2009年2月にOFFECCTからGROWソファー発表。
SHIFTING VASEはデンマークのメーカーMATERから、Flamesはベルギーのメーカーから発売予定。

ベストクライアント賞 イートアンド（株）

ベストクライアント賞 （株）ワールド

「ベストデザイナーズ賞」ノミネート者（敬称略・順不同）

東　潤一郎
JA laboratory

南　利治
ソフィア

今福　彰俊
スーパーマニアック

米澤　研二
日建スペースデザイン

岩本　勝也
岩本勝也＋エンバディデザイン

三好　裕子
乃村工藝社関西事業本部

橋本　健二
橋本健二建築設計事務所

須賀　成人
乃村工藝社関西事業本部

松中　博之
designroom702

川崎　善広
PROPELLER DESIGN

「ライジングデザイナーズ賞」ノミネート者（敬称略・順不同）

岩橋 翼
アトリエ kuu

渡辺 裕樹
エリアコネクション

松浦 竜太郎
乃村工藝社関西事業本部

金澤 拓也
カームデザイン

永田 武
イレブンナイン

沼田 行正
沼田行正デザインオフィス

金子 光知子
船場

高橋 建司
乃村工藝社関西事業本部

藤井 昭宏
ファーストライン

JCDkansaiデザイナーズアクセス2009

デザイナーズトークバトル

広報企画委員会　先崎 綾華

＜ デザイナーズトークバトル ＞
日　時：2009年10月23日（金）　17:00〜18:30
場　所：阪急中津駅高架下丸甲倉庫
テーマ：「次代の商環境とは」
パネリスト：足立和夫（デザインフレスコ）
　　野井成正（野井成正デザイン事務所）
　　辻村久信（ムーンバランス）
　　間宮吉彦（インフィックス）
コーディネーター：茂川　誠（商店建築社　編集長）

次代の商環境とは（一部抜粋）

茂川　ここ1、2年のデザイン状況といったものに関してのインプレッションみたいなものをお話していただけたらなと思います。

足立　リーマンショックの前から家の中に物が溢れていて欲しい物が無いって言う状態になっているんですね。例えば店を創るって事は、施主の方々はその店を通じてなりあいをつくっている訳ですから、物が売れないとオーナー、施主みんな困る訳ですが、欲しくないというジェネレーションに物を売ろうと思ってもこれは売れないんですね。今みんな何を求めているかって言うと、心の満足であったりとか、自分の自己達成であったりとか、もっと目に見えない満足っていうところをみんなが求めている。我々がこれから物を解さずいかにしてデザインで満足って言う所をつくっていくかって事が非常に重要なところで、そういう意味でそんな時代の真只中に居る若いデザイナーがどういう事を発信してくるかというのが非常に楽しみでもあります。

茂川　デザインというものが色、形といったものでみると、2、30年で変わってきたところってありますか？ 例えば建築というカテゴライズを分けるような、ここ20年位あったんですが、10年くらい前からそういった境がなくなってきたように思えるんですね。建築ができてA、B→Cという工事があって、最後インテリアが入るというこういった流れが、インテリアに趣をおいて最後建築が決まっていく、といった流れがすごく大きな変化かなと思ってますが。

足立　まさにそのとおりですね。以前は建築があって、インテリアがあるという時代だったんですが、今はインテリアから発信して、建築がまとりを創るという時代に変わってきていますね。

茂川　ヨーロッパは、家具があって空間があって、建築ができるというベクトルがあるとして、日本はずっとその逆だと言われてましたけど、現場でそれが変わってきているという感じはありますか？

野井　あんまり創りこまなくてもなにか成り立つという…最小限これだけは残しておかないと成り立たない、ぎりぎりのところでもっている。できるだけ簡単に処理し、それでどことなく雰囲気がかもし出されているというそういう傾向にあると思います。

茂川　こういった人達のものづくりの考え方とか創るワークフローとかが変わってきたという事なんでしょうか？ それとも意識の中で、もっと気持ちのいい、人が集まってきた中で空気感を先にイメージしながら創っていく様な事ができる様になってきたという事なんでしょうか？

野井　ひとつは生活の中に欲しい物が満たされているんですね。自分の欲しい物、あるいは自分のこういった環境っていうものが、ある程度のところまでは満足できていると、あとなんか違った環境の中へ飛び込んでみたい。それは創りこんだ環境ではなくて、逆に作りこんでいなくて個性のあるようなそういった方に流れていったんですね。そういう空間ができすぎてしまって、逆にふと抜かれた部分に対して逆にあこがれるっていうのが、とけこんでいけるという、そういう感じなんですね。あんまりまず意識しなくてもいい、それとやっぱりポケットの中の財布がさびしいと思うんですね。前はゆとりあったけど、今はだんだん厳しくなってきて、若い人でも結構シビアですよね。だからどんどんこう俺について来いみたいな感じの若い子っていうのは減ってきてるのかなって。ちょっと寂しい感じかなって。

茂川　自分の世代と、下の世代と、世代で切った場合にすごく変わってきたなって思う事ってありますか？

間宮　デザインって言う切り口は時代によって違いますし、場所によっても違うと思うんですよね。僕はそのデザインって言う事にそんなにこだわってクリエイティブしたんではなくて、あくまでも自分がそういう時代に育ったカルチャー的な音楽であったり、アートであったりそういった物を表現する為にデザインをしていた訳であって、例えば飲食をしながらそういったものを表現したい、物販でこういったものを売りたいというライフスタイルですよね。それを表現する為に自分でできないから誰かにたのんでデザインしてやってきたんであって、どうしても情報が消化されていって、同じものができてきますよね。誰でもデザインができるようになってきて、日本は特にどこにいっても同じものがあると思います。最初の何件かはすごく個性的でおもしろいんですが、それは個性的なオーナーがその場所を使って何か個性的なデザイナーを使ってやるから面白い訳であって。そのうちどんどん周りの人たちがそれをまねしてやるから個性じゃなくなる。そうすると個性じゃなくなるんですね。

辻村　時代性と普遍性っていうのはバランスであって、物、空間っていうものは目立ったらいけないけど、人と同じ事をしていたらあかんという事に繋がっているのかな。デザインするときにいつも心の中に思っている事は、結果そういうところが残っていってる気がするし、そういうところが時代を掴んでいってると思います。

茂川　現代性を取り込むっていうのは、すごく難しい事だと思うんですが、意識して辻村さんのなかで取り入れるときのなかで手法とか考え方ってありますか？

辻村　いつも反省するんですね。おもしろがりなので、常に新しい事に対して非常に敏感で、あれもしたい、これもしたいと。でもデザインを吐き出していく時に思っている事は、これやめよう、これやめようと、どんどんそぎ落としていって、結局自分がやりたかった事とか、お客さんがやりたかった事とか、ここだなっていう。これをはずしてしまうと物として成り立たないという所まで持っていくっていうのはいつもやっているんです。

茂川　辻村さんは反省がキーワードとすると、間宮さんはその現代性っていったものを自分の形の中に取り込むときは何か意識される事はありますか？

間宮　やっぱり瞬間みたいなものは一番大事なんですけども、人が新しいと思う事を提案する事が新しいと思うんですよね。みんな新しいものって好きじゃないですか。新しい店ができたから行くわけであって、行った時に何が新しいかって自分が新しいと感じるから新しいわけで、その現代的っていうのは、みんなが新しいなって思っているものを常に作り続けないといけないんですね。現代的な物のつくり方っていうのは、瞬間、瞬間を創っていかないといけないと思う。

茂川　それは常に意識しているという事ですか？

間宮　意識してるというか、それをデザインのソースにしている。これを創るとみんながどう思うかという事を考えていって、そこからデザインしていかないと。

茂川　例えばスランプの時とか、ストレスを感じたとき具体的にやる事ってありますか？

野井　時間と共に消えたり、バーに行ってビール飲むか、ちょっとアルコールに頼るときはありますね。やりすぎると体に良くないので、適当に映画をみに行ったりとか、そういったとこらへんですね。

足立　昔から貯めているスケッチブック見ます。当然その実現しなかったプランとか見る事でもう一度その人生リサイクルするとか。そういう事はありますね。

間宮　スランプとかストレスが溜まるというのはストレスが溜まるからストレスなんですが、常にストレスだとストレスは溜まらないんです。デザインも常に最先端のデザインをしていればそれがなくなったときは死ぬときですよね。

茂川　僕はつまらない事があると、アジアの町に逃避するのが好きですね。ああいった国に行くと元気が出る。やっぱり住んでいる人がすごく元気なんですよね。24時間マーケットが動いていて、自分が寝てないでも誰かが働いているって思うと、いちいち寝てられないな。というのがすごく出てくるんです。

―― これからのデザイナーに求められる事とは？　簡単に一言メッセージを。

茂川　デザイナーの前に一人の人間であって、特に商業はクライアントが居るわけであって、クライアントの言葉を理解してそれに返してあげようと思う根源的な気持ちがすごく重要かなと思ってます。なんとかしてあげようという様な気持ちがすごく重要なので、それは失わない方が僕は大事なのかなと思います。

足立　経済を動かすのはお金ではなくて、人間の創造力。今の様な経済状態で、仕事が減ってるとか、関西がうまくいってないとか、日本がうまくいってないとか、やはりこれを救えるのは人間の想像力というか、クリエーション以外ないんじゃないかと思います。

野井　やっぱり体全体で感じてほしい。ハイテクの道具にとらわれず、なんかアイディアを出す時に肌で感じられる自分の気持ちを持っていてほしい。

辻村　デザインというのは人との関係の中でできてくるもの、物との関係でできる、何かと何かを繋げていく仕事だと思うんで、繋げていく為には自分という立ち位置をしっかりしていかなければいけないと思います。ローカリティーっていうのはすごく小さい意味で、町、京都、日本、そういう事になるわけですけども、そういうものを意識したデザインというものを日本人は世界に発信していかなければいけないと思います。

間宮　デザインはパトロンを探す事が一番だと思うんですね。パトロンって言うのはそのデザインに対してお金をはらって物を創らせてくれるいいクライアントの事で、安く物を創らせる、簡単に創らせる為にデザイナーとして使われるんでなくて、お金がかかってもいいからなんか面白いものを創らせたいと思わせる事ですね。

社団法人日本商環境設計家協会デザイン賞委員会委員長　岩佐　達雄

昨年のアメリカ発サブプライムローン問題に端を発した世界経済危機により大幅な応募数の激減を予想したが全くその逆のデザイン賞歴史的最高記録の459の作品が寄せられて正直驚いている。うち海外は13作品であった。

日本のデザイン界におけるこのJCDデザイン賞がある程度認知が行き届き、社会的に評価を受けているのではないか、歴史の重みを感じている。

まず一次審査員20名により、インターネット審査によりベスト100を選出。今回は票数の関係で101作品となった。

公開審査会にはこの101作品のパネルが持ち込まれ、9人の審査員による審査が開始された。この中から28作品が銀賞以上とされ、さらに金賞5点、そして新人賞2点、最後に大賞が選ばれた。最後の大賞選考は意義のある議論が展開され、大変興味深い内容であった。私個人にとってももし私ならと考えさせられる場面であった。JCDという商業を基軸とする団体であるということ、しかし商業だけ特別だろうか?商業も社会ではないか?デザインは普遍ではないか?などさまざまに交錯する中、大賞は中村竜治氏のブロッサム（レ・アール・ド・セゾン・セージ　プライベイト・ダイニング）、長野の結婚式場の一空間のインテリアであった。

マーケッティング、マーチャンダイジング、コンセプトーさまざまな作業を経て到達することも重要であるが、ある時は一刀両断的な技も必要なのだろう。そんな思いもした。中村氏はこれで2度目の大賞受賞者となった。今までの賞の歴史の中では初めてである。また中村氏のプレゼンテーションのうまさは称賛に値する。

審査委員長　近藤　康夫

大賞の中村竜二氏『ブロッサム』は、順当な結果だったと思う。ミニマムな空間だが、花というモチーフをうまく使い、単なるシンプルとは違う空間を創り上げており、大賞に値する作品だと感じた。最後まで大賞を争ったのが、『中勢似』という精肉店である。ビジネス的にも非常に難しい与件を、結果的に素直な形で表現した。久々にショップデザインとしての潔さを感じた。肉というリアルな素材をうまくショップ表現に生かしていて、非常に好感が持てた。

ここ数年の傾向として建築家の受賞が多いが、今年度は、デザイナーがビジネスと真摯に向き合った結果としてのデザインをいくつか見ることができたと思う。

審査員　グエナエル・ニコラ

WHAT IS BEST DESIGN THIS YEAR? AN EXPECTATION AND EXCITEMENT RENEWED EVERY YEAR. ALWAYS WANTED TO BE INSPIRED, TO DISCOVER SOMETHING NEW, AN OTHER WAY OF THNKING WHAT NEW IDEAS WILL BE REVEAL AND INFLUENC ETHE DEISGN IN THE YEAR TO COME.
LOOKING AT THE DIFFERENT PROJECTS I WAS NOT LOOKING FOR ANSWER, BUT LOOKING AT PROJECTS THAT ASK QUESTIONS, PROPOSE NEW DIRECTIONS NOT SOLUTIONS.

COMMERCIAL SPACE IS NOT (JUST) ABOUT INTERIOR DESIGN BUT ABOUT COMMUNICIATION, CONNECTION, RELATIONSHIP. A COMMERCIAL SPACE DOES NOT EXIST FOR ITSELF BUT FOR THE PEOLPELS THAT WILL VISIT THE SPACE, INTERACT. IT IS CREATING A DIALOGUE BETWEEN DIFFERENT ELEMENT, A SPACE, OBEJCTS, PEOLPES, AND IMAGES.

IT IS A TYPE OF WORK THAT I FOUND VERY CHALLENGING BECAUSE NEVER FROZEN IN TIME, IT IS IN CONSTANT EVOLUTION, WHAT WAS TRUE AND APPROPRIATE A A FEW YEARS AGO CAN NOT BE APPLYIED THIS YEAR OR NEXT YEAR. SO YOU ALWAYS HAVE TO BE ATTENTIVE TO THE CHANGE OF SOCIETY, BEJAVIOUR AND SOMEHOW COMMON SENSE.
SO 3 THINGS ARE IMPORTANT, THE PROCESS OF DISCOVERY (LAYOUT), THE MATERIALITY OR IMMATERIALITY (LIGHTING, MATERIALS) AND THE CONNECTIVITY OF THE SPACE (EXPERIENCE).

HAVING SAY THAT THE MOST IMPORTANT IS THE IDEA, I MEAN THE INTENTION OF THE DESIGN.

WHAT MAKES IT YOUR OWN EXPRESSION, ITS UNIQUENESS. HOW YOU YOU CREATE THIS MOMENT WHERE THE VISITOR WILL FEEL THAT SOMETHINING HAPPENED , HE WILL BE INSPIRED.
YOU DON¤T DESIGN FOR THE SENSES BUT WITH THE SENSES.

WORKING IN JAPAN IN I ALWAYS HAVE THE FEELING THAT IS A TOTAL FREEDOM FOR CREATIVITY AND NEW IDEAS. THE AUDIENCE AND CLIENT ARE MORE OPEN THAN OTHER AND THE EXPECTATIONS ARE VERY HIGH. JAPANESE INTERIOR DESIGN EVOLVED FROM INTERIOR ARCHITECTURE TOWARDS COMMUNCATION SPACE, THE DISAPPEARANCE OF THE BOUNDARIES IS TOTALLY LOGICAL, AS WE FINALLY IDENTIFY THE PURPOSE OF THE SPACE ITSELF, TO COMMUNICATE. THE NEW INTERIOR DESIGNS GENERATES RENEWED EXPECTATIONS AS NEW EXPERIENCES ARE PROPOSED, BEYOND THE SPACIAL QUALITY OF THE SPACE.
I HAVE THE FEELING THAT JAPANESE INTERIOR DESIGN IS RECENTLY GUIDED BY THE PERCEPTION OF JAPANESE DESIGN VIWED FROM ABROAD AND IS ENTERING A CIRCLE. IT IS DEFINED BY ITS OWN RFLECTION FROM THE MEDIAS. BUT IT UNIQUENESS HAS MUCH MORE ASPECTS THAT SHOULD BE DEVELOPED AND EXPLODE.

SO IN A PLACE WHERE EVERYTHING IS POSSIBLE I LOOK FORWARD TO THE NEXT.

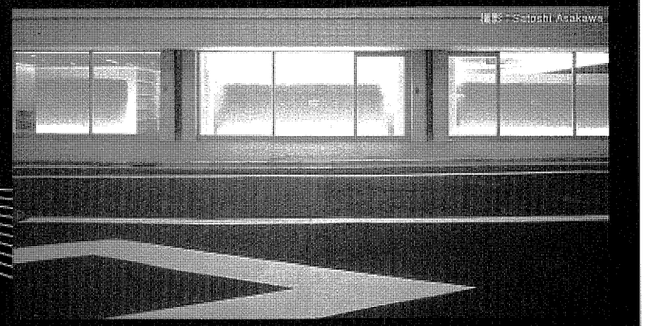
■選考点数一覧表

	応募総数			入賞点数
	国内	海外	計	
1:買うこと	60	2	62	3
2:食べること	74	1	75	2
3:集うこと	87	1	88	5
4:楽しむこと	59	3	62	5
5:伝えること	72	4	76	5
6:感じること	94	2	96	8
合　計	446	13	459	28

■入賞の内訳

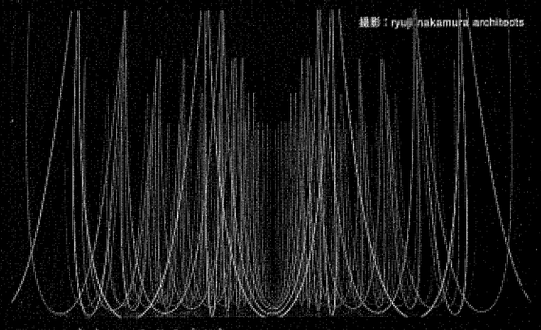
大賞	金賞	新人賞	銀賞
			3
1			1
	1		4
	2	1	2
	1		4
	1	1	6
1	5	2	20

金賞 Gold prize


撮影：Satoshi Asakawa

THE KLOCK WORX
米谷ひろし
有限会社トネリコ

撮影：長安 伸

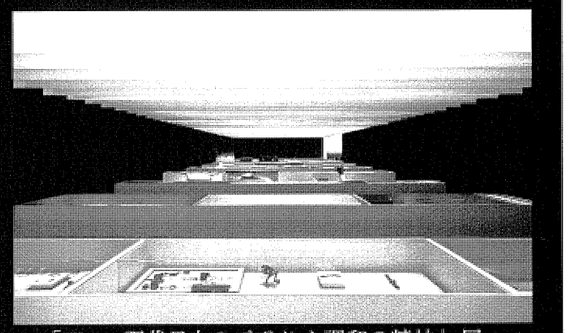

撮影：ryuji nakamura architects

空気のような舞台（オペラ「ル・グラン・マカーブル」舞台美術）
中村竜治
株式会社中村竜治建築設計事務所

やまこや
長岡 勉
point

Eric Laignel Studio / Joshua Lieberman

中勢以
藤井信介／西澤明洋
株式会社 DesignEight／株式会社エイト



「WA－現代日本のデザインと調和の精神」展
米谷ひろし＋君塚賢＋増子由美
有限会社トネリコ

銀賞 Silver prize

撮影：石井紀久

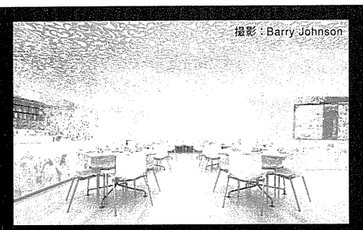
DURAS ambient Fukuoka
大野力
株式会社シナト

撮影：Daici Ano

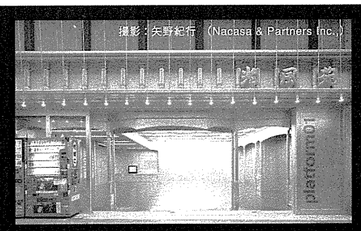
ジンズ グローバル スタンダード 新砂店
資神尚史＋田中美香
日吉坂事務所

撮影：ササキケンジ 富江英俊

モスプレスサンド テイクアウトブース
菊池卓　コモンズ株式会社


撮影：Barry Johnson

Beijing Noodle No.9
河合優吉　design spirits co., ltd.



撮影：矢野紀行（Nacasa & Partners Inc.）

BEPPU PROJECT - PLATFORM01/02
塩塚隆生　株式会社塩塚隆生アトリエ

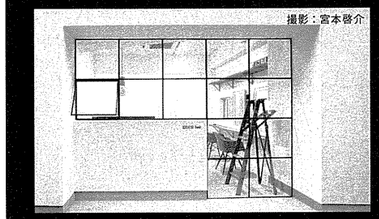
Y150 はじまりの森
加茂紀和子＋曽我部昌史＋竹内昌義＋マニュエル・タルディッツ　みかんぐみ

撮影：satoshi shigeta / Nacasa & Partners

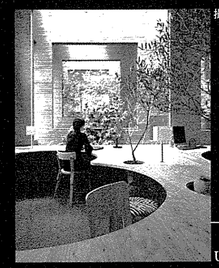
東京大学くうかん実験棟
平沼孝啓　建築デザイン研究所／ヒーズワークショップ－アジア

撮影：中央アーキ

Spitzen weben
上領大祐＋坂下加代子＋松本悠介
中央アーキ


撮影：宮本啓介

Zilch hair
湯口巌　タカラスペースデザイン株式会社


撮影：UID architects

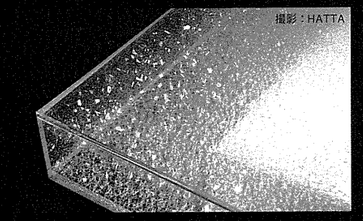
森× hako
前田圭介
UID 一級建築士事務所

撮影：Nacasa & Partners inc.

EXTO JAPAN SHOP 2009
米谷ひろし＋君塚賢　有限会社トネリコ

撮影：株式会社ナカサアンドパートナーズ　辻谷宏

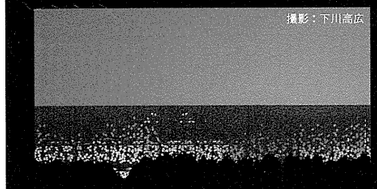
アルケア ふくろうハウス
志村美治＋井筒英理子　株式会社フィールドフォー・デザインオフィス


撮影：HATTA

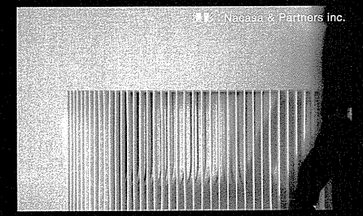
TECHTILE 2
NOSIGNER

撮影：古瀬圭

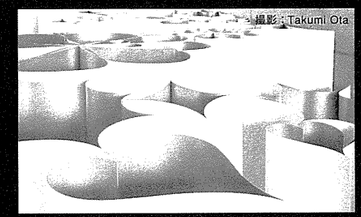
C.A
妻倉慎司　tsumac design factory


撮影：下川高広

AREA gallery
河口佳介＋山田幸恵　K2-DESIGN Inc.


撮影：Nacasa & Partners inc.

INTANGIBLE
米谷ひろし＋君塚賢　有限会社トネリコ


撮影：Takumi Ota

Heart of Shapes
KEIKO + MANABU

撮影：梶原敏英

VEGA
小泉誠
コイズミスタジオ

撮影：ナカサ&パートナーズ　矢野紀行

アルティアム 谷尻誠展
谷尻誠　サポーズデザインオフィス

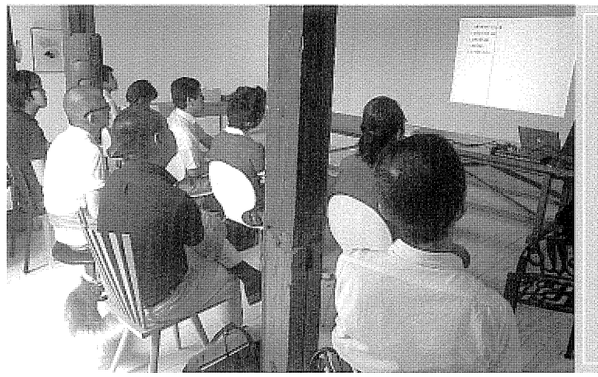
撮影：古川泰造

清荒神清澄寺 史料館
川合智明＋田中光典＋北村仁司　株式会社竹中工務店

広報企画委員会報告

第2回デザインカレッジ

広報企画委員会　橋本 健二



＜ 第2回 デザインカレッジ ＞

日 時:2009年8月8日(土)　14:00~17:00
場 所:橋本健二建築設計事務所(茨木市
ゲスト:川崎　弘二、谷村　雅弘
内 容:それぞれの普段の活動と想いをお聞きしてから、テーマを決めて、ディスカッション形式で来られた人も交え、進めていく。
音と絵画を客観的な視点で見てこられた、それぞれの想いを語っていただきます。

第２回デザインカレッジは、2009年８月８日に行なわれました。今回のゲストは、谷村雅弘さんと川崎弘二さんでした。

谷村雅弘さんは、京都　亀岡市にある知的障害者施設「みずのき」に勤めておられます。「みずのき」では、寮生に絵を描くことを教えています。彼らの絵はスイスのローザンヌの美術館にも納められており、東京の世田谷美術館の「アウトサイダー美術展」にも展示されました。

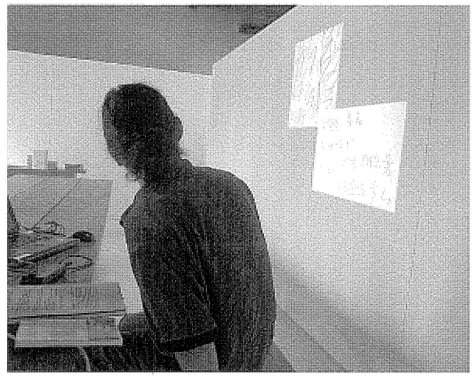
絵画教室は、画家の西垣籌一さんが、1964年から指導を始められました。谷村さんは、90年代から指導のお手伝いをされていました。谷村さんのお話は、彼らの描く絵から受ける感動や美術教育とは何かそして障害者にどう関わっていくのかなど、いろいろなお話を聞けました。

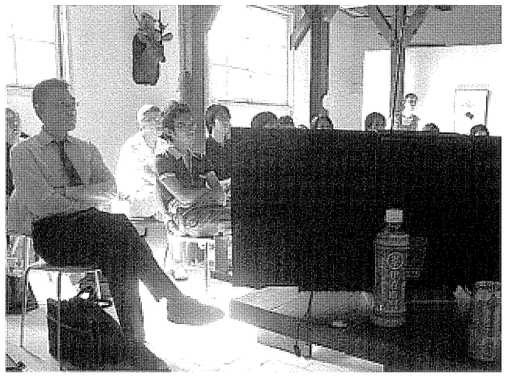
川崎弘二さんは、歯科医として大学病院で働いておられますが、サウンドアートの評論家としても活躍されています。本も執筆されており著書に「日本の電子音楽」（愛育社）が、あります。今回のお話は、現代音楽の歴史や実際に音楽を聴かせていただきその内容の説明などをしていただきました。

その後は、質疑の時間とお二人でのトークセッションなどを行ないました。関わりのないようなお二人のお仕事ですが、音楽と絵画を客観的に見てこられたお二人の世界観のお話は、大変興味のあるものでした。

PROFILE
谷村　雅弘　1958年に生まれる。
京都・亀岡にある障害者施設「みずのき寮」で、絵画を教えることに携る。
寮生の絵がスイスのローザンヌの美術館にも納められ、ジャンルを超えた彼らの絵はアウトサイダーアートという括りで表現されている。

川崎　弘二　1970年大阪に生まれる。
1994年に大阪歯科大学大学院を修了。博士（歯学）。
2006年に「日本の電子音楽」（愛育社）を、2009年に同書の増補改訂版を上梓。
現代音楽・サウンドアートの研究に加え、最近では、小杉武久さんがおられた「タジマハール旅行団」のCD・DVDの発売の監修をする。





第3回デザインカレッジ

広報企画委員会　橋本 健二

＜ 第3回 デザインカレッジ ＞

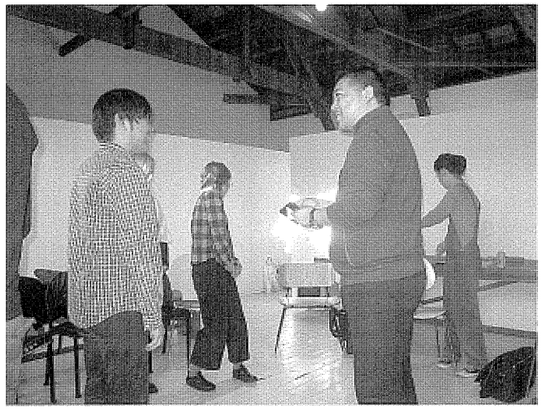
日 時:2009年11月7日(土)　14:00~17:00
場 所:橋本健二建築設計事務所(茨木市)
ゲスト:月刊商店建築編集長　笈川誠
内 容:14:00—15:30
「商店建築」の歴史と過去から現在にいたる商業空間の流れを語る。
15:40—17:00
軽く飲み物をいただきながら参加者全員でディスカッションタイム。

2009年11月７日第３回デザインカレッジを、私の事務所で行いました。今回のゲストは、月刊「商店建築」の編集長　笈川誠さんでした。商店建築の歴史や現在のインテリア業界について思われてることなどを、主に語っていただきました。

前回は、テーブルを挟んでゲストと対面形式でしたが、少し距離間を感じましたので今回からは、椅子を円形に並べてみなさんが、気軽に質問できるような形式にしました。

たまたま私が、父から譲り受けた1958年と1959年の「商店建築」の合本がありましたのでそれも題材としたり、私自身が好きなデザイナー境沢孝さんのお話などをお伺いしました。

後半は、みなさんと飲み物をいただきながら、笈川さんとみなさんが会話できる時間をとりました。編集の仕事の内容や、若いデザイナーの方があまり知らない過去のインテリア業界のお話など興味あるお話が聞けたと思います。そして私達デザイナーが、媒体を使ってどのように何を表現していくかも考えていかなければなりません。まだ少し人数が少ない状態ですが、若手デザイナーの育成に役立てるよう課題点も解決しながら次回のデザインカレッジに繋げて行きたいと思います。



デザインカレッジ

デザインカレッジは、いろいろな分野で活躍されている方々をお招きし、自分の分野に対する思いや考え方などを語って頂きながら、関西でこれから活躍していく若手デザイナーの方々との交流を合わせて、これからのデザイン活動のヒントになれればとの思いで、シンポジューム・フォーラム形式で行ってきました。

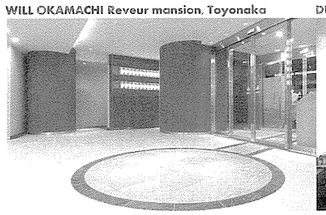
この１年間で３回開講し、６人の他分野の方々に話をしていただきました。それぞれ関連することはありますが、なかなか話をする機会も少ない方々です。他分野に触れることで何か参加者の活動を広げるきっかけになればと考えています。広報や開催形式・内容などこれからも見直す必要は多々ありますが、関西で活動しているもの同士として知り合う機会になっていけばと思っています。また今後、関西と東京や他の地域で活躍されている方々とのデザインカレッジも考えていきたいと思っています。

今後も年３回程度の企画を行っていきたいと思っています。ぜひ御参加ください。

新入会員紹介

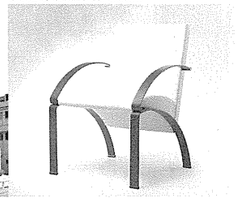
ELENA GALLI GIALLINI

WILL OKAMACHI Reveur mansion, Toyonaka



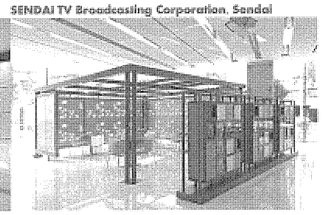
DUKE SCALA -CorteSerena Seijou mansion, Tokyo

GINZA, Chairs collection



CARJU RAJAH Salon Este, Keio Plaza Hotel, Tokyo

SENDAI TV Broadcasting Corporation, Sendai



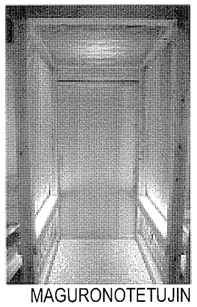
Being an Italian architect I naturally cross over from the field of architecture to interior design and industrial design. Whatever field I work for, I value innovation and creativity as key in finding better solutions for our life and our future.
That means being able to generate comfort with style, aesthetic with functionality, balance with identity, while respecting the culture and the context concerned. Above all I aim to produce "scenarios of life" evoking emotions.

ELENA Design Office
Architecture & Design
E-mail: egg@bca.bai.ne.jp
http://www.elenagalligiallini.com

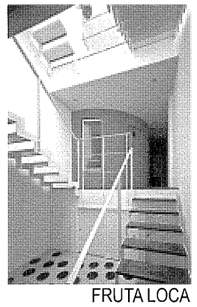
大東　俊也

人・仕事・今日に感謝をし、人・社会に感謝される企業を目指す。

YAMABUKI



MAGURONOTETUJIN



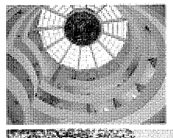
FRUTA LOCA

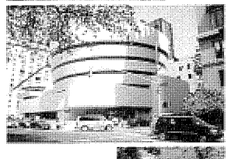
おおひがし　としや
1975年　大阪生まれ
大阪大学環境工学科卒業

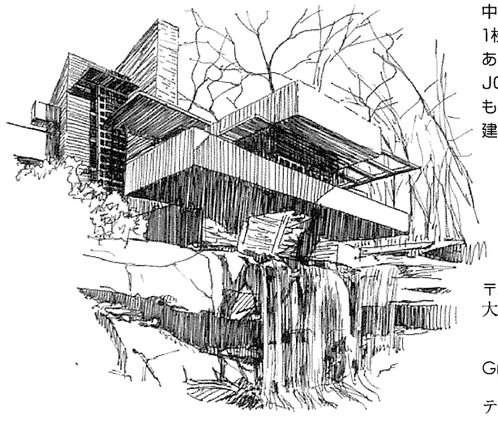
一級建築士
インテリアプランナー
野菜ソムリエ

（有）キューブファクトリー　　http://www.cube-factory.net/

小川　芳輝







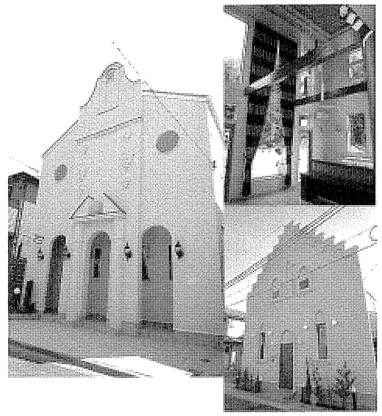
中学生の頃、頭の中に飛び込んできた
1枚の"スケッチ"
あれから約半世紀が・・・・
JCDに参加させてもらえたのを期に
もう一度"スケッチ"とともに
建築・設計に向かい合いたいと考えています。

TETRAS
〒532-0011
大阪市淀川区西中島4-3-4-903
TEL　06-6889-5870
FAX　06-6889-5875
Gmail:tetras1980@gmail.com

テトラス　　小川　芳輝

新入会員紹介

北村　晏南



建物は生きている

大好きなびわ湖が図面を書いている窓の向こうに見える。その湖面は季節折々に私を楽しませてくれる。その湖面に続く山並みや空も又、私にデザインのヒントをくれる。だから私のデザインは届かない遠くの自然をモチーフしたものが多い。

なのに、この素晴らしい自然を壊しながら私は建物を建て続けている、その事に対して心の何処かでいつも「ゴメンナサイ」と呟いている。

この奇妙な気持ちをもう何十年も繰り返しそしていつからか建物の声が聞こえて来たような気がする。だから建物は生きていると私は思っている。

これからも建物の気持ちに寄り添ってデザインして行きたい、自然に感謝し、自然に話しかけながら。

今日のびわ湖はまた一段と綺麗に見えた。

デザインcan GENKI
北村晏南
〒520-2422　滋賀県野洲市比留田33
TEL.077-589-6052　FAX.077-589-2595
http://genkisooki.com/

先崎　綾華

パナソニック電工㈱　大阪商業照明EC
先崎　綾華（せんざき　あやか）
1979年生まれ
2008年松下電工㈱ 入社
2010年パナソニック電工㈱ 在籍
TEL:06-6945-7805
FAX:06-6945-7833

職場風景

照明プランナーとして商業を担当しております。商業暦７年になります。
人と人とのつながりを大切にし、小さな輪から大きな輪につながるように心がけております。
知識の引き出しを増やせるよう皆様とのかかわりの中で多くの事を学びたいと思います。
未熟者ですが、宜しくお願いいたします。

新入賛助会員紹介

株式会社 CTD

商業店舗へのインテリア、エクステリア　輸入をサポート

株式会社 CTD　は結婚式場やホテルのブライダル施設を中心に、会場施設の家具、照明、壁装飾、アイアンワーク、アートワークなどの輸入をサポートしています。
空間を創造される設計者のコンセプトを充たす製品選定やご提案をいたします。
スタンダード品輸入からオリジナルオーダー品生産まで、中国工場・市場の情報量、調整力、迅速さを活かしてご提供いたします。
この機会にJCD会員の皆様に、ご希望いただきましたら、ワークフローや実績の紹介DVDを進呈しております。
よろしくお願いいたします。

株式会社　CTD
〒890-0062　鹿児島市与次郎2丁目4-35 KSCビル706
TEL:099-253-8355　FAX:099-253-8623　HP:http://www.ctd-co.jp　　担当 営業　大塚　otsuka@ctd.jp

JCD/DAIKO連続デザインシンポジウム SECTION46 TOKYO & 47OSAKA

研究委員会　中尾 晋也

ステージ全景（大阪）

＜デザインシンポジウム＞

SECTION46　TOKYO
2010年2月22日（月）　於：九段会館
パネリスト　中村竜治、米谷ひろし
コーディネーター　韓　亜由美

SECTION47　OSAKA
2009年2月25日（木）　於：大阪市中央公会堂
パネリスト　中村拓志、エレナ・ガッリ・ジャッリーニ、服部滋樹
コーディネーター　関　康子

テーマ：「Cross Over Design ～領空侵犯～」
主 催：（社）日本商環境設計家協会　大光電機（株）

ＪＣＤと大光電機は２月22日、東京（九段会館）、25日大阪（大阪市中央公会堂）で恒例のJCD/DAIKO連続デザインシンポジウムSECTION 46 TOKYO ＆ 47OSAKAを開催した。両会場の共通テーマは「Cross Over Design ～領空侵犯～」。いろいろな場面でそれぞれの専門分野領域を超えて仕事をしているクリエーターが数多くいる。今回は領域を超えての活動を行っているクリエーターに語っていただいた。

東京会場は建築家の中村竜治氏、インテリアデザイナーの米谷ひろし氏、アーバンアーキテクトの韓　亜由美氏。大阪会場は建築家の中村拓志氏、建築家のエレナ・ガッリ・ジャッリーニ氏、デザイナーの服部滋樹氏。コーディネーターはあらゆるデザイン領域に造詣の深い元アクシス編集長の関　康子氏。

大阪会場は品川正之ＪＣＤコミュニケーション委員長と前芝辰二　大光電機代表取締役社長のあいさつで幕を開けた。

シンポジウムは関氏の自己紹介の後、中村氏が自作を解説しながら、従来の広い野原に家を建築するのではなく、そこに繁茂する樹木を利用して建築をする。また書店のデザインでは制作の場としても利用できる書店など従来の建築家にないインテリア分野も視野に入れて設計している背景などを語った。

服部氏はデザイナーというポジションで○○デザイナーではなくあらゆるデザインと言う分野でのチョコレートのデザインからインテリア、建築、家具、照明器具、食器、グラフィックデザインなど数多くの作品を紹介。「自分のポジションをしっかりと持っていれば、どの分野の仕事でも対応できる」と語った。

建築家のジャッリーニ氏はイタリア人建築家として活躍。京王プラザホテルや仙台放送の設計で広く知られているが、シンポジウムでは、建築家としての基本姿勢を語った。レオナルド・ダビンチを生んだイタリア人らしく、イタリアではクロスオーバーは当然のこととし、違う分野の懸け橋になるものを探る。つまりデザインをより良く見せることと機能させる事を融合させていくことである。特にアートと建築が一つになる事は当たり前で、「これをより高度にしていくにはクロスオーバーが重要であると語った。」

最後にコーディネーターの関氏から「これからの商空間はどうあるべきか？」の問いに、中村氏は「一言で言えば関係性のデザイン、つまりあらゆ分野との関係をデザイン化していくこと」、服部氏は「刺激を与えること。つまり不便であることで、刺激を与える。そうしたデザインをいかに作っていくかである。」、ジャッリーニ氏は「仕事の中で不便さは求めないが、問題はそれをどう乗り越えていくか、そうすることで不便さを楽しむことができる。それを実現するにはクロスオーバーが重要になる」と語った。

最後に白井進ＪＣＤ関西支部支部長のお礼のあいさつの後、ドリンクパーティーが開催されパネリストと600余名の参加者との交流を深めた。

コーディネーター
関　康子氏

中村拓志氏、服部滋樹氏、エレナ・ガッリ・ジャッリーニ氏

第113回 コアトーク in OSAKA

中尾 晋也

2009年11月13日、JCD−KANSAIと大光電機共催の第113回コアトークin OSAKAが、大光電機ショールーム「ライティングコア大阪」で開催された。

ゲストスピーカーには、株式会社乃村工藝社関西事業部クリエイティブ統括部の松浦竜太郎氏と大光電機株式会社大阪ＴＡＣＴデザイン課の村西貴洋氏をお招きした。

従来のコアトークとは違い二人のパネリストのたっての希望で、軽いアルコールをパネリストもオーディエンスもいただきながらの軽いタッチでの和やかなスタート。

テーマは「Ryutaro Matsuura×Takahiro Muranishi インテリアと照明」。

二人の共通点は松浦氏が1975年大阪生まれ、村西氏が1976年大阪生まれと同世代で大学卒業後、それぞれ乃村工藝社と大光電機に入社し、インハウスデザイナーとして活躍している点が大きい。組織の中でのデザイン活動は、独立系のデザイナーとは一味違った思考が出てくるものと感じられる。

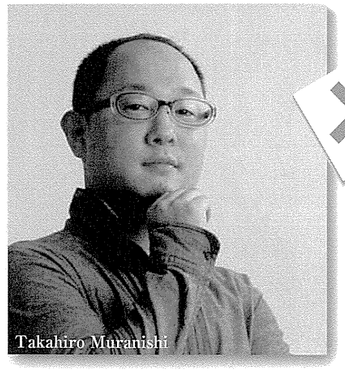
トークは松浦氏の担当プロジェクト「俄」をはじめ多数のプロジェクトの解説とそのプロジェクトにどのようにライティングデザイナーの村西氏が関わり、一層魅力的な環境にしていったか、そしてインテリアデザイナーとライティングデザイナーの立場の違い故、お互いの主義主張のぶつかり合いの中で、より良い空間へのチャレンジ精神の相乗効果で生まれてくるプロジェクトのハーモニーが語られた。生まれてきた空間は二人の思いが昇華したものに違いない。

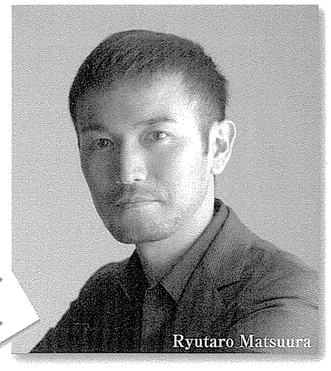
村西氏から「松浦さんらしい事ってなんですか？」と言う質問に松浦氏は「仕事は丁寧に、施主の希望はどんな小さな事でも実現できるように細かく行う。」とその細やかな気配りに自分らしさを見出そうとし、松浦氏の「村西さんらしい事ってなんですか？」という質問に、村西氏は「僕は愛嬌です。一緒に仕事をするデザイナーにいかにフィーリングを合わせていくか、という努力をしている。」と仕事の中でデザイナーと同じ気持ちになってデザインを進めていく配慮を語った。

トーク終了前に、インハウスデザイナーとして良かった事は？　との問いに二人は共通して「素晴らしい先輩が多数おられ、指導していただけること、そして多くの同僚、後輩に恵まれお互いに切磋琢磨できること。」を挙げている。

30代の次世代のデザイナーによるコアトークは、それぞれの専門分野とのコラボレーションデザインの来るべき次の明るい業界の未来図を見せてもらったような気がする。

一人の力では素晴らしいプロジェクトは完成しない…。


Takahiro Muranishi


Ryutaro Matsuura

松浦 竜太郎 RyutaroMatsuura
（株式会社乃村工藝社 関西事業本部 クリエイティブ統括部 所属）

1975年大阪生まれ。
関西大学大学院工学部建築学科を卒業後、（株）乃村工藝社入社。
主な案件に、「俄 京都本店」「ロイヤルホテルカフェ&バーリバーサイドテラス」「レストラン ヴァリエ」「モード和食 総本店 笹次」「ホワイトエッセンス銀座店」など。

村西 貴洋 Takahiro Muranishi
（大光電機株式会社　大阪TACTデザイン課　所属）

1976年大阪生まれ。
神戸芸術工科大学芸術工学部卒業後、大光電機株式会社入社。
照明デザインの仕事を始め11年目。飲食店の照明計画を趣味にしている。
あらゆる空間の『あかり』を設計し、全国各地で照明セミナーも行っている。

JCD関西支部活動報告

2009年度支部総会

交流委員会　藤村 正継

本年の支部総会は、京都で開催する事になりました。

正会員、賛助会員とも、大阪を本拠地にする方が多いなか、地の利のない京都での開催は集客が心配されましたが、結果的に、当初の見込み数を超え、会場を広い会場へ変更して対応しました。

内容は議事進行とともに、様々な決議と報告。賛助会員さまからの新製品発表及び展示。それから懇親会へと進みました。

今回の会場は日本画家“竹内栖鳳”邸　あとを改修し、レストランにしたリユース空間のモデルでもあり、私達、商空間をデザインする者にとって、大変参考になる空間でありました。

時間が進むにつれ、建物の存在が無くなり、ライトアップされた「八坂の塔」が美しく、竹内画伯もこのような

＜JCD関西　支部総会＞
日時：2009年6月8日（月）
場所：京都「GARDEN　ORIENTAL」

風景に触れながら、筆を嗜めたのかと、ふと想像いたしました。

また、夜の庭園風景も素晴らしく、新しくデザインする事への虚しささえ感じました。

もし、今、新しくデザインされた空間より、いにしえの空間からリスペクトされる機会が、私達デザイナーに多くなっているとすれば、京都には刺激される空間が宝のように存在する筈です。

京都にて、集まり、美を愛でる。そういう総会もあるのでは？と感じました。

日本の空間デザイン展2009

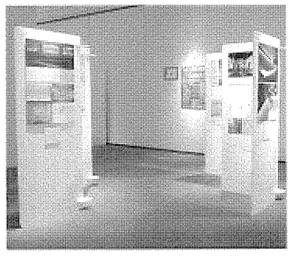
副支部長　末浪 伸浩

昨年までＡＴＣ「デザインギャラリー」で開催されていた『日本の空間デザイン展』が、今年度より会場を「大阪くらしの今昔館（8階 企画展示室）」に移し開催されました。（一部案内展示は、4階 住情報プラザにて設営。）

従来のオープニングパーティは会場の都合により行われませんでしたが、アクセスがよくなった事で来場者数が1,000人に届こうかという勢いで飛躍的に伸びました。ただ、期間中随時開催のＵＳＤ-Ｏフォーラムは、動員が少なく閑散としており淋しく感じられた事は否めません。

ＪＣＤブースは例年通りＪＣＤ Award 2009の展示でしたが、他団体に比して内容のポイントが不明瞭に感じられ、“商”の部分のパワーを汲み取る事が困難に思えました。

空間デザイン系５団体（DDA,JCD,JID,OIS,SDA）が共催出展するこの作品展は、現在の潮流を知るに留まらず情報発信の手段として非常に有効であり、有意義な事業として位置づけられます。その事をふまえ、内容の充実を図ると共により活性化する方向が必要であると感じられました。



第1回大阪市あきないグランプリ

涉外担当理事　山田 悦央

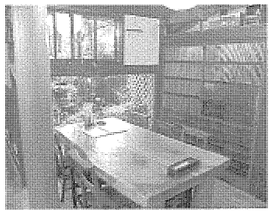
JCD賞に大阪市平野区のうどん店六々々屋に決定

大阪市内の商店街の活性化を図っていくため、個店経営力の向上や魅力ある個店づくりを推進していくために実施されている「大阪市優良店舗コンクール」がリニューアルされ「第１回大阪市あきないグランプリ」となりました。

ノミネートされた50店舗の中から25店舗が優秀賞に選考され、さらにグランプリ１店舗、準グランプリ２店舗が決定いたしました。

その中で優秀賞（店舗部門）（社）日本商環境設計家協会（ＪＣＤ）賞として５店舗を選考いたしました。このうち「六々々屋」が第一回グランプリ（市長賞）になっています。

○ うどん店	六々々屋
○ せんべい製造、小売	はやし製菓本舗
○ 菓子・珍味販売	三都屋
○ 婦人服店	みどりや
○ 駄菓子・居酒屋	駄菓子の扇屋



第一回グランプリの「六々々屋」

JCD関西クリスマスパーティ

交流委員会　藤村 正継

毎年恒例であるクリスマスパーティ、本年は「デザイナーズアクセス」開催のすぐ後でもあり、本来の会員間の交流に徹しようと、特に展示・セミナーなしでの開催といたしました。

つまり、飲んで・食べて・お話する、これで良い。と考えたわけです。

となると、必要なのは、上質な食べ物、お酒、上質な空間。ということで、今回の会場が選ばれました。

この会場は都会のリゾートとでも言うべき、「はちけんや」にあり、大川や対岸の桜並木などの風景を眺めながらの食事です。

食事も本格フレンチ。また、ワインも飲み放題。まさ

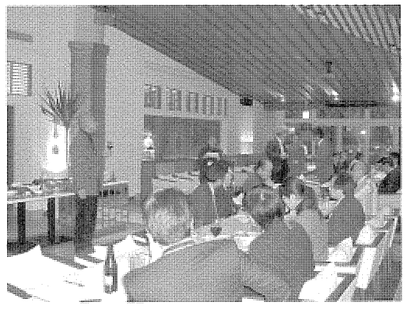
＜JCD関西　クリスマスパーティ＞
日時：2009年12月7日（月）
場所：大阪「River Suite Osaka」

にクリスマスです。

ＪＣＤ恒例の“みかん一箱”が当たる抽選会もあり、おおいに盛り上がりました。

ＪＣＤ関西の交流イベントに少しふれますと、「正会員の参加が不十分で、賛助会員さんが参加しても精がない」とよく言われます。

正会員の参加が少ないのは、魅力的なイベント企画が打ち出せない、交流委員長の私の責任であります。



しかしながら、今回、私は司会の役を忘れるほど、楽しく、飲み、食べ、賛助会員さんとお話いたしました。少々酔っ払いもしました。

社団法人の正会員と企業を代表する方の交流会ではありますが、所詮、人と人の集まりであり、人と人の繋がりで、世間はできています。

目の前の人を楽しませないで、商空間に来る多くの人々を楽しませることが出来るのでしょうか。

これからも関西交流委員会は人の繋がりを大切にしたいと思います。

第30回JCD・DDA合同チャリティー絵馬展

市川 邦治

第30回新春吉例のJCD・DDA合同チャリティー絵馬展が、昨年と同じ「京阪シティモール・天満橋」にて、1月7日(木)から15日(金)まで開催され、JCD関係者の作品127点が展示されました。(株)京阪流通システムズさんの広報活動や、過去応札いただいた方の名簿を蓄積し年賀状として案内状をお届けするなど、来場者増加策が効果を上げ、多勢の方に来場いただきました。

今年より、SDAさんが不参加となり会場構成を心配する声も有りましたが、概ね前年並みの作品が集まりました。また、委員会活動の見直しが委員長会議などで議論され、絵馬展は従来の交流委員会から外し、有志による「絵馬展実行委員会」にて実施されました。

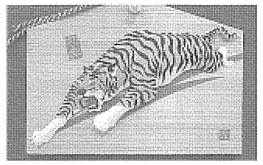
今回も昨年同様、京阪沿線の来場者が多いとの推測からテーマ「中之島」「京阪沿線」を設けました。

落札いただいた方へ1月末に作品発送を終え、入金いただいた義捐金は後日大阪府福祉基金に寄付されました。

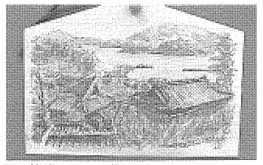
年末の忙しい時期にもかかわらず出展いただいた方、当番の人員が少なく一人当たりの時間が長時間になり申し訳ありませんでした。多くの方々のご協力に感謝いたします。

=====高額落札作品ベスト5(作品番号順)=====

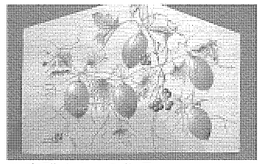
木谷 啓さんの作品



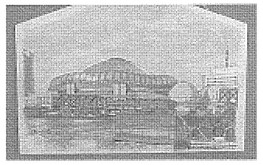
前川 弘さんの作品



岡 修作さんの作品



三宅雅夫さんの作品



白井 進さんの作品

来場者数	約1,500名 (昨年約1480名)
出展作品数	127点(昨年140点)応札
総　数	159件(昨年218件)
落札件数	91件(昨年93件)
落札率	72%(昨年66%)
義捐金総額	約22万円 (昨年約24万円)

るるぶ会　高野山・龍神スケッチの旅

平成21年11月28~29日　参加者12名

金沢 明彦

晩秋のるるぶ会のスケッチは、かつらぎの丹生都比売(にうつひめ)神社、高野山、龍神温泉を巡ってきました。

るるぶ会メンバーの萱野さんの実家は、和歌山県の九度山で代々、柿山を営んでいる農家です。現在、跡を継がれ、ライティングデザイナーでありながら柿の農家を営んでいる珍しい方です。その萱野さんのご好意で一昨年から柿をわけていただけるということで、るるぶ会メンバー十数名で九度山まで押しかけています。今回は、柿をわけてもらうため先に、九度山の萱野さんの柿山に向かいました。

C級品とはいえ、形が少し整っていないのとへたのあたりに黒紋が出ているので市場に出せないだけで、我々にとっては、大きなまるまるとした特上の富有柿です。萱野さんに感謝感謝。

柿を車に積み込んだ後、かつらぎの丹生都比売神社に向かいました。創建は1700年前という由緒ある神社で、本殿の手前に朱色の見事な太鼓橋が架かっているのを池越しにスケッチをしました。その後高野山へ向かい、奥の院の近くの食堂で昼食をとり、その後すぐに、奥の院を一の橋から御廟橋まで2キロほど石塔が建ち並ぶ参道を歩きました。詳しい石塔の中身は長くなるので省略しますが、有名な大名などの墓碑や供養塔が立ち並んでいます。一番奥には樹齢千年と思われる深い杉木立の中に空海の御廟あり、時折小雨の寒い中、御廟橋から御廟を、手を擦りながらスケッチブックに収めました。

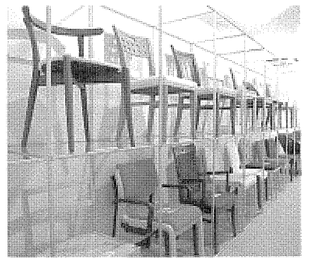
日帰り組とは奥の院の入り口で分かれ、龍神スカイラインを一路、龍神温泉に向かいました。お宿は上御殿といって、龍神温泉では最も由緒があり、江戸時代には紀州徳川家の殿様専用の湯殿であった老舗旅館です。残念ながら当時の建物は明治に焼けましたが、玄関を入った所に御成の間が復元されていました。夕宴は鹿肉やアマゴや山菜など山の幸に舌鼓を打ちながらお酒がすすみ、楽しく温泉宿の夜は更けていきました。

翌日は、旅館の近くの龍神の滝まで山を登り、日高川に架かる橋から渓谷をスケッチし、絵筆を走らせました。朝の日差しが山にかかり、谷川が光るとても美しい風景でした。帰りは前日に見ることができなかった高野山の金剛峯寺に立寄り家路に着きました。

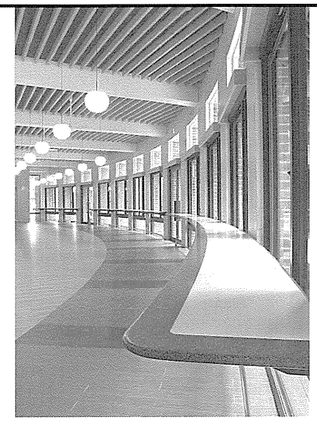
トータルインテリアメーカー
SINCOL
シンコー株式会社
http://www.o-sincol.co.jp
〒577-8525
大阪府東大阪市長田東3丁目3番16号
TEL(06)6747-5291 FAX06-6747-5846

取扱商品
壁紙(クロス)
カーテン・ロールスクリーン
カーペット(ロール・タイル)
長尺シート・CF(ポンリューム)
椅子張地(レザー・テキスタイル)
塩ビ床タイル(マットネラ)
椅子・テーブル(サンコスモ)
など

Needs & News



ST ADAL
業務用イス・テーブル及び注文家具 製造 販売
株式会社 アダル 大阪支店
〒556-0014
大阪市浪速区大国町1丁目2−21 NICビル602号
TEL:06−6646−4141
FAX:06−6646−4488
ホームページ http://www.adal.co.jp
担当:平田・清水
E-mail:e.hirata@adal.co.jp (平田)
shimizu@adal.co.jp (清水)



人工大理石製造・各種人工大理石加工販売
Good Thinking & Good Quality
和田商事株式会社
大阪市中央区北久宝寺町2−6−10
ニューライフ船場607号
TEL:(06)6245−0331
FAX:(06)6245−0332
http://www.wada-shoji.co.jp
E-mail:info@wada-shoji.co.jp

スーパーマテリアルズ

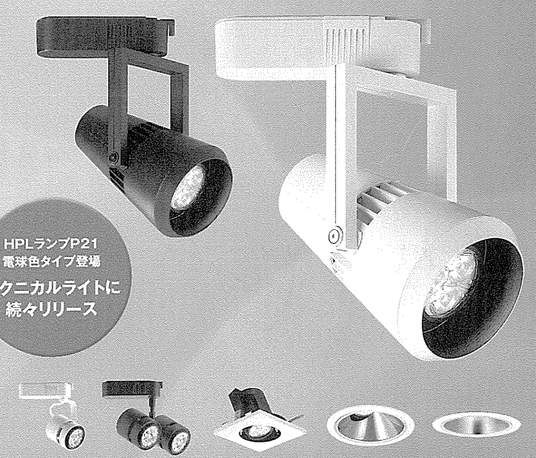
国内外のデザイナーとコラボレートすることでクオリティを極め、今までにないオリジナリティを実現した『空間創造タイル建材コレクション』です。

クリヤマ株式会社
大阪市淀川区西中島1丁目12番4号
建設資材営業部 建材チーム
TEL:06-6305-5611
FAX:06-6305-5615
http://www.kuriyama.co.jp

LED
HPL LAMP P21
Warm White Type = 3000K
HPLランプP21 3000K電球色タイプ
LEDの光に、もっと豊かな表現力を。

ランプ本体部に内蔵した3個のLEDと超集光レンズを組み合わせ、
専用口金のランプタイプで取り替えも可能なHPLランプP21。
照明演出でのニーズも高い3000K電球色タイプが新登場し、
温かみのあるスポット光による演出が可能になりました。
φ50mmミラー付きハロゲン球65W相当の明るさを、消費電力7.8Wで実現。
超集光ランプと散光ランプがあり、2種類の配光から選べます。
LEDの特長をいかした、新しいライティングデザインの可能性を広げます。
マックスレイの代表的なテクニカルライトのシリーズへさらに展開していきます。

- 温かみのある、自然な光色の3000K電球色タイプが、新登場!
- 消費電力7.8Wで、φ50mmミラー付きハロゲン球65W相当の明るさを実現(電球色タイプ)。
- 電球色タイプ発売にともない、従来の昼光色タイプもお求めやすい価格にプライスダウン!

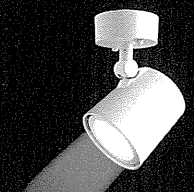


HPLランプP21
電球色タイプ登場
テクニカルライトに
続々リリース

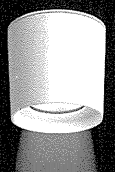
店舗照明の専門メーカー
maxRAY
A Harmony of Light and Space
マックスレイ株式会社 http://www.maxray.co.jp
〒536-0014 大阪市城東区鴫野西2-18-6 TEL.06-6967-0140(代) FAX.06-6962-5988
東京 03-3791-2711 大阪 06-6967-0123 名古屋 052-252-9556 福岡 092-431-7824
ISO 9001 認証取得
ISO14001 認証取得
FM 523978 / ISO 9001:2000
EJ 01838 / ISO 14001:2004

Panasonic
ideas for life

住まいにも、街にも、ますます広がるLEDのあかり。



室内のインテリアに溶け込む
住まいのあかり。



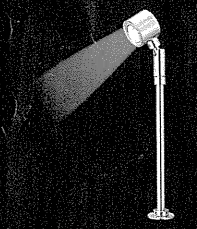
シンプルなシルエットの
住まいのあかり。

建築空間をすっきりみせる
住まいのあかり。

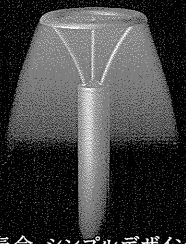
薄くてもしっかり明るい
店舗のあかり。

コンパクトなフォルムで
空間になじむ店舗のあかり。

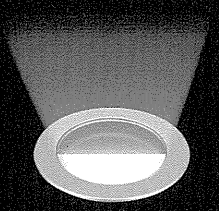
省エネルギーで室内を照らす
施設のあかり。



さりげなく商品を演出する
店舗のあかり。



長寿命、シンプルデザインの
街のあかり。



コンパクトで景観に調和する
街のあかり。

パナソニック LED 照明器具

EVERLEDS

エバーレッズ

パナソニックのLEDがさらに進化。用途に合わせた商品ラインアップで、ますます使いやすくなりました。LEDのあかりは、消費電力が少なくて、長寿命。これからは、ずっと明るい暮らしが実現できます。

LED照明器具ダウンライト60形高出力タイプの場合※

年間CO_2排出量	年間電気代	ランプ寿命
約54kg削減	約3,000円節約	約40,000時間

eco ideas
あかりの「エコアイディア」

※CO_2排出量および電気代算出のための試算条件 ○白熱灯器具レフ電球60形ダウンライト（NL78857WK）とLED照明器具ダウンライト60形高出力タイプ（NNN21010）との比較。○年間点灯時間3,000時間 ○CO_2排出係数0.39kg-CO_2/kWh ○電力料金目安単価22円/kWh（税込）

パナソニック電工株式会社 商業照明EC
お問い合わせ先…〒540-6217 大阪市中央区城見2丁目1番61号 TEL.06-6945-7805 denko.panasonic.biz/Ebox/everleds/